

外出支援 相乗り開始から5ヶ月



昨年11月より、外出支援で相乗りが可能になりました。総利用回数からすればわずかな回数ではありますが、相乗りを活用する場面がありました。

しかし送迎希望時間や行き先が重なることは稀で、相乗りを活用する場面も少なく、年々増加するニーズに対する打開策とまではいきません。

現在200名近くの方が外出支援の登録をされています。多くの方が利用されるため、病院への送迎希望時間も重なってしまいます。午前中の利用が多く、特に9時～11時頃の時間帯は利用が集中し、運転員の確保に苦慮しています。

▶11月は過去最長の走行距離

近年、南丹市の明治国際医大付属病院や、京都中部総合医療センターを受診される方も多く、1回の利用距離も増加しています。昨年11月は運行回数が過去最多、走行距離に関しては3,000kmを超え、過去最長となりました。そんな中、11月は早

速7組の方の相乗り利用がありました。下表は11月～3月までの運行回数、走行距離及び、相乗回数等をまとめたものです。

▶時間変更等、ご協力お願いします

限られた人員と車で運営していますので、前日までの予約、事前に立ち寄り先などの申し出をお願いいたします。また遠方への送迎時など、時間調整や、相乗りをお願いすることが出てくるかと思えます。毎日多くの方が利用されるサービスです。円滑な運行を行うため、ご協力お願い致します。

<外出支援 相乗り運行記録>

年月	運行回数	総走行距離	相乗回数	相乗り距離	相乗り時間
2023年11月	281件	3,244.8km	7回(組)	123.9km	2時間12分
12月	230件	2,137.5km	4回(組)	24.0km	44分
2024年1月	178件	1,747.7km	2回(組)	12.2km	20分
2月	215件	2,083.6km	5回(組)	34.2km	1時間2分
3月	167件	1,495.0km	4回(組)	49.3km	1時間23分

※相乗り距離は、複数名乗車で走行した距離の合計。相乗り時間はその合計時間。

※3月は3/25現在の数値

NPO法人クローバー・サービス

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山53

■TEL (0771)88-5014 / ■FAX (0771)88-5017

■e-mail: info@cloverservice.or.jp

■ホームページ http://www.cloverservice.or.jp

クローバー・デイサービスセンター

京都府船井郡京丹波町橋爪楡山41-1

■TEL & FAX (0771)88-0138

■e-mail: day@cloverservice.or.jp



facebook QR



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。写真は、ティファナ(メキシコ)から米国への案内板(1999年筆者撮影)。

誰が犯人かはどうでもよい
クリステイヤクロフツ、
横溝正史などの推理小説は
大好きである。しかし、
「犯人は誰か」という一点に
おいて、なぜか関係者が一
堂に会して、全容が解明さ
れるラストは読み飛ばして
しまう。

事件の発端から、それを
調査していく過程が楽しい
のである。犯人(＝答え)に
は、さして興味がない。映
画でも、このラストで、大
抵ねむたくなる。性根がね
じれているのか、犯人が嘘
を重ね、抜き差しならない
状況にどんどん落ち込んで

いくのを、面白がってしま
う。『刑事コロンボ』は、
犯人が最初からわかっ
てい。ピーター・フォーク
が、ネチネチと犯人を追
つめていく。取りようによ
つては、かなり陰湿な人間
である、コロンボは。

『深夜の告白』(一九四四)

映画でこの手のタイプの
傑作に、ビリー・ワイルダー
の『深夜の告白』やジョ
ル・コーエンの『ファーゴ』
がある。

『深夜』は肩を撃たれた
保険外交員のフレッド・マ
クマレーが、深夜、テー
プレコーダーで上司に数カ
月の出来事を報告する場面
から始まる。要は顧客の妻、
バーバラ・スタンウィック
に誘惑されて、その夫を殺
す羽目になる。例によって、
計画はどんどん狂っていく。

ナチスから逃れハリウツ
ドに來たワイルダーは、ア
メリカを代表する喜劇の監
督である。立川談志も、映
画はワイルダーさえあれば
いいと言っていた。『サン
セット大通り』(一九五五)は、
プールに浮かんだウイリア
ム・ホールデンの死体が回
想を始めるという実にとぼ
けた始まり方をする。グロ
リア・スワンソンの一種心
理恐怖映画である。死者の
回想と言えば、マーチン・
スコセツシは『カジノ』(一
九九五)で、爆風で宙に舞
つて殺されんとするロバ
ート・デ・ニーロが回想を始
めるのもある。

『ファーゴ』(一九九五)

ジョエル・コーエンは弟の
イーサンと脚本を書き、ジ
ョエルが監督する。
『ファーゴ』はノースダコ

タのファーゴが舞台。借金
だらけの自動車販売員ウ
リアム・メイシーが、妻を誘
拐させて、その大金持ちの
父から身代金を取ろうとす
る。いかにも残忍で頭の悪
そうな前科者二人を雇う。
一人はステイヴ・ブシ

エミ。この映画は役者にす
ごいのが並んでいる。バカ
な二人組は、警官は殺すわ、
目撃者は殺すわで、もうメ
チャクチャな重喜劇にエス
カレットしていく。暴力描
写はすさまじいが、全編を
とぼけた喜劇性で組み立て
てあるので見ていてニタニ
タしてしまう。

さて、この捜査に当たる
のが、妊婦の田舎警察署長
マージ。大きなお腹をさす
りフウフウと動きはのろい。
しかし、捜査は的確である。
演じるのは監督の妻、フラ

ンシス・マクドーマンド。
この映画で知って以来、彼女の出演作は必ず見ている。マージには、魚釣りをするぐらいで特に仕事もしていない夫がいる。彼はいつも妻に弁当を作って持たせてやる。この二人の関係がほほえましく、死体をミンチにするような映画を、生活感のあるあたかなものにしていく。この夫役のピーター・ストメアなんて、他の作品では、凄みのある悪役しかやらないのである。

コーエン兄弟の暴力は、独特の知性とユーモアで包まれていく。非日常に追い込まれた人間への観察力が勝れている。サスペンスやスリラーは、秀作ほど喜劇性を帯びるのだと思う。

ヤンドラーである。かつて清水俊二や双葉十三郎の名訳で人気のあった作品は、村上春樹訳に替わってしまった。そのチャンドラーの作品では、『大いなる眠り』の映画化『三つ数えろ』(一九四六 ハワード・ホークス)と『長いお別れ』の映画化『ロング・グッドバイ』(一九七三 ロバート・アルトマン)が好きである。『三つ』の脚本は、何とあのウイリアム・フォークナーである。この作品以降、ハリウッドにはハードボイルド映画というジャンルが定着する。

『深夜の告白』の脚本はチャンドラー



『三つ数えろ』のハンフリー・ボガートとローレン・バコール

この映画は色んな遊びでいっぱいだ。開巻の十五分は、決まったキャットフードしか食べない飼猫のために深夜のスーパーに買いに行くまでを延々と描写する。「ロング・グッドバイ」というテーマ曲を色んな編曲で演奏者を変えて、全編に流しつづける。マリブ

の高級住宅地の守衛ケン・サムソンは、来客にジェームズ・スチュワートやバーバラ・スタンウィックの物真似で応じる。本来は映画監督であるマーク・ライデルがヤクザの親分を演じ、手下にはまだ無名のシユワルツネガーがいる。五千ドル紙幣(当時なら百八十万円札)というのもこの映画で初めて見た。メキシコのティファナのラストは『第三の男』(一九四九)のいたたきである。

この映画があまりに好きなので、ロス・アンジェルズからティファナに出かけたことがある。しかし、それは二十世紀末のティファナで、第一次イラク戦争で砂漠の戦車走行用に使われた鉄板が、国境に沿って二国を分断していた。

ホークスに「テイラーを殺したのは誰だ」といった。テイラーは映画に出てくる運転手である。この人物の失踪がそもそもの事件の発端である。しかし、ホークスもだれもわからなかった。そこでホークスは、チャンドラーに電報で問い合わせる。ところが、作者のチャンドラーも「知らない」と返事をよこしたとのこと。

『ロング・グッドバイ』は『ナッシュヴィル』(一九七五)とともにアルトマンの最高作である。ここでマールロウを演じるのはエリオット・グールド。



桜色に染まったデイフロア

昨年4月からデイフロアに設置した木のモニュメント、利用者によってもらった桜の花で彩られ、満開になりました。

肌寒い日々が続いた3月でしたが、春らしい桜色につつまれ、一足早く春を感じられています。

人事異動のお知らせ

4月1日付けで、ヘルパー部門の管理者が変更となりました。

【訪問介護・障害者居宅介護・重度訪問介護】

(新) 管理者 / サービス提供責任者 兼務 :
塩田 吉之

(新) サービス提供責任者: 竹内 理沙

※ サービス提供責任者は、塩田吉之、長岡夏江に竹内を加えた3人体制です。

＜賛助会員＞

(有)あさひ堂
(株)一谷住宅
イン・ザ・ルーム 亀岡店
上段税理士事務所
(株)高木設備
たにやま鍼灸接骨院
田端輪業
(有)土佐寿司
(有)永田損害保険事務所
(有)西村テレビ
三木歯科医院
みづほ電工
理容ちどり

(五十音順)

編集後記

次第に早くなってきた夜明

我が家の庭では、桜に先駆け、ピンク色の馬酔木(アセビ)が満開になり、春を告げてくれています。▼春といえは「桜」「花見」「花粉症」「入学式」「新生活」などイメージされる方が多いと思いますが、私は庭の馬酔木が咲きだし、春のセンバツ高校野球がはじまりだすと春の訪れを感じます。▼四季のある日本では古来より文学作品に季節の話を織り込むことがしばしばなされてきました。平安時代中期、清少納言の随筆『枕草子』もその一つ。【春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。】の書き出しからはじまります。現代風に訳すと、【春は夜明け頃がいい。次第に白んでいく山と空の境目が少し明るくなり、紫がかった雲が細くたなびいて行くのが素晴らしい。】と書かれています。確かに冬を終え、

次第に早くなってきた夜明け頃は、空気も澄んでいて気持ちがいい時間です。▼その「あけぼの」も形を変え、逆輸入されていることはご存じでしょうか？ アメリカの首都ワシントンD.C.に日本から桜(メイヨシノ)が贈られ、桜の名所となっていることは有名ですが、そのソメイヨシノから種を取って育てた「アケボノ」(日本名アメリカ)という桜の苗木が戦後日本へ贈られて、東京都調布市の神代植物公園に植えられました。その「アケボノ」から接ぎ木した桜が新たな勾配種「神代曙」(シンダイアケボノ)として、現在広まりつつあるそうです。▼ソメイヨシノに比べ、神代曙は病気に強く、小ぶりで寿命も長いという利点があり、植え替えが進んでいるとの事。ソメイヨシノより色味が濃いのが特徴だそうです。これから先、桜といえば「あけぼの(神代曙)」という時代になるのかもしれないね。

へ 編集子へ